

予 算 要 求 資 料

令和6年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 学力向上総合推進事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会義務教育課小中総合支援係 電話番号：058-272-1111(内8592)

E-mail：c17785@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 4,435 千円 (前年度予算額：4,435 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	4,435	0	0	0	0	0	153	0	4,282
要求額	4,435	0	0	0	0	0	159	0	4,276
決定額	4,435	0	0	0	0	0	159	0	4,276

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

教育環境が大きく変化していく中で、教員の指導力の向上と21世紀の岐阜県を担う児童生徒の学力を育成するための指導方法と教材の研究、ICTを効果的に活用した教育の推進、生徒の興味・関心や優れた能力をより一層伸ばすコンテスト等を実施する。

生成AIは、教員や児童生徒も利用可能な状況であり、個人情報漏洩や著作権侵害等リスクを回避するため、県として一日も早く導入に関する指針等を示す必要がある。また、学校や市町村教委からの研修や実践事例の提供に対する要望が多いが、生成AIを効果的に授業等に取り入れた実践事例が創出されていない。

(2) 事業内容

①授業力向上推進事業

現行の学習指導要領とともに、改訂された学習指導要領を踏まえた教育を推進するための授業改善の研究を行うため、各教科等の外部団体の活動を支援。

②個性伸長事業

児童生徒の関心や意欲を高め、個性を伸ばし、資質や能力を活用する力を育成するために日頃の成果を発表する場を提供する。

③教育における生成AIの利活用に関する実証研究事業

新技術である生成AIを活用した実践事例の普及促進のため、有識者による研修会やパイロット校への実践支援を行う。

④ICT関連事業

各学校におけるICTを効果的に活用した授業や教育事務所のICTを活用した授業支援のためにICTアドバイザー派遣やICT機器の提供を行う。

(3) 県負担・補助率の考え方

県負担10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	205	講師謝金等
旅費	822	学校訪問、研究会等に係る旅費
消耗品費	1,074	ICT機器、賞状、記念品等
印刷製本費	653	リーフレット・作品集録の印刷、表彰状等の筆耕印刷
修繕費	200	物品等の修繕
役員費	5	賞状への筆耕等
保険料	53	傷害保険
委託料	827	会場設営等に係る経費
使用料	446	機器資材運搬、会場使用料等
備品購入費	150	指導主事用端末等
合計	4,435	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第4次岐阜県教育振興基本計画

施策Ⅱ 「未来を創る確かな学力と実践力」の育成

8 未来を創る基礎となり、社会で生きる学力の育成

9 ICTを利活用できる力の育成

10 科学技術・情報技術やものづくりへの関心の醸成、起業家精神等の育成

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

児童生徒一人ひとりが新しい時代を生きる基礎学力を育むため、個の学習状況に応じたきめ細かな指導の充実を図る指導体制づくりや教材開発等の充実を図る。

教育で生成AIを利活用するにあたって、活用の具体や利便性、留意点等について実践研究や検証を行い、実践事例や成果、課題について普及を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						

○指標を設定することができない場合の理由

一人ひとりの児童生徒の確かな学力を育成し、多様な個性の伸長を図るとともに、全教科において取り組む事業であるため、指標の設定にそぐわない。

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<p>各教科等の全国大会や東海大会等において、委託した教科等の団体が優れた取組を実践し発表することができた。</p> <p>各種コンテストにおいて、令和2年度は新型コロナにより開催できなかったが、出品数や参加者数がコロナ以前の数に近づけることができた。</p> <p>各学校の要望に応じてICTアドバイザーを派遣し研修を実施することで、校務や授業において、より有効にICTを活用することにつながった。</p>
	<p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和4年度	<p>各教科等の全国大会や東海大会等において、委託した教科等の団体が優れた取組を実践し発表することができた。</p> <p>各種コンテストにおいて出品数や参加者数が増加傾向にあり、児童生徒の興味関心や優れた能力をより一層伸ばすことができた。</p> <p>各学校の要望に応じてICTアドバイザーを派遣し研修を実施することで、校務や授業において、より有効にICTを活用することにつながった。</p>
	<p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>
令和5年度	<p>各教科等の全国大会や東海大会等において、委託した教科等の団体が優れた取組を実践し発表することができた。</p> <p>各種コンテストにおいて出品数や参加者数が増加傾向にあり、児童生徒の興味関心や優れた能力をより一層伸ばすことができた。</p> <p>各学校の要望に応じてICTアドバイザーを派遣し研修を実施することで、校務や授業において、より有効にICTを活用することにつながった。</p>
	<p>指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：_____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 3	<p>教育環境が劇的に変化していく中、新学習指導要領の実施に向けて、確かな学力を身に付けさせるため。 ICTを取り巻く状況は日々変化しており、特に新技術である生成AIについては、利便性や留意点等をふまえた適切な対応が各学校に求められている。しかし、全国的にも参考事例が少なく、県として実践研究を進め、実践事例を創出し普及することが急務である。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>各教科の実践研究の成果が有効活用され、授業改善が図られている。また、セミナーやコンテストに多くの児童生徒が参加し、日頃の学習成果を発表する場が提供されている。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 2	<p>各教育事務所や各校等と情報交換・情報共有を密にし、連携を図りながら事業を実施している。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 確かな学力を身に付けさせ、興味・関心や優れた能力を伸ばすため、県内の教員や児童生徒への事業普及を図り、一層の改善を進める必要がある。 生成AIは新しい技術であり、全国的にも参考にできる実践事例は極めて少ないことが課題である。生成AIを効果的に授業等に取り入れた実践事例の創出と検証・普及を図ることが必要である。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 現行の学習指導要領とともに、新学習指導要領の趣旨を実現し、県内全ての児童生徒の学力の育成を支援する研究や実践を積み上げ、公開・普及していくことが必要である。 利便性と危険性を伴う生成AIについて、県として各学校において適切に運用するための情報提供は喫緊の課題であり、継続すべき事業であると考えている。市町村からも生成AIについての運用方法については問い合わせが多くニーズが高い。まずは、教員利用について実証研究を行い、令和7年度以降は、児童生徒の適切な利用について取り組むことを想定している。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	【〇〇課】
組み合わせる理由 や期待する効果 など	